

令和6年度学校自己評価システムシート（県立騎西特別支援学校 北本分校）

目指す学校像	自立や社会参加に向け、心豊かにたくましく生きる力を育て、保護者や地域から信頼される学校
--------	---

重点目標	1 発達段階や教育的ニーズに応じた専門性の高い授業を展開し、自立活動や体験活動を通して児童生徒一人一人の可能性を延ばす教育を推進する 2 小・中・高の連続性のある進路指導体制を構築し、児童生徒の自立と社会参加に向けた教育を推進する 3 危機管理の意識を高め、事故防止と緊急時に備えた安心安全な学校づくりを推進する 4 保護者や地域と協働し、開かれた教育課程の実現と児童生徒の豊かな成長を支える学校づくりを推進する
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	開校3年目の学校として、教育課程の検討を引き続き行う必要がある。授業のねらいについては、教員・生徒・保護者間で共通理解ができていない部分もある。	・3学年分の教育課程の整備。	・教育課程検討委員会を中心とし授業実践と課題整理をとおして教育課程の検討を行う。 ・様々な場面を活用して、授業のねらいに関し共通理解を行う。	・課題を反映した教育課程を編成することができたか。 ・保護者アンケートの授業評価の項目で8割以上の評価を得られたか。			
	ICT機器を利用した分かりやすい授業が増えてきている。復習を含めた在宅授業での活用やコンテンツの充実が必要である。また、今年度は校務支援システム導入の準備の年となっている。	・ICT機器を活用した授業の推進。	・ICT担当教員を中心に教員向け研修や情報提供を行い、学校全体でICTの活用を進める。 ・様々なコンテンツ使用を試行し、本校の教育課程に合った活用事例を積み上げる。	・校務支援システムを導入し、運用のための準備ができたか。 ・教育コンテンツを活用した授業を行い、在宅の授業で参考となる事例をまとめられたか。			
2	昨年度に学校全体としての職業教育のねらいを策定した。それを基にキャリア教育を実践し、キャリア教育の全体計画を作成予定。	・キャリア教育の全体計画の作成。	・職業の全体目標を教職員全体が理解し、キャリア教育を意識した授業を展開する。 ・各職業班でキャリア教育に関する情報共有を行う。	・キャリア教育の全体計画が作成できたか。 ・各職業班の授業をとおして、卒業後の進路を意識させることができたか。			
	通学区域が広域のため、現場実習、進路決定に向けた企業等開拓の課題が大きい。分掌や学年等の組織を活用し、各教科・職業の授業をとおした就労支援を行い、生徒の進路実現につなげる必要がある。	・企業情報の収集と関係機関との連携。 ・生徒の自己理解を基にした進路実現	・進路指導主事を中心に企業開拓を行い、実習先の確保をする。 ・生徒自身が自分の良さに気づき、自己肯定感を高められる授業を意識して行う。	・企業先情報を整理し、共有することができたか。また、新たな実習先を見つけられたか。 ・生徒の自己理解が深まったか。個々に応じた進路指導が行えたか。			
3	危機管理マニュアルを実効性のあるものに再編成する必要がある。また、現在行っているヒヤリハットの集計を、事故の未然防止のために活用できるよう検討する。	・各種マニュアルの再点検と安全安心な教育環境の整備。	・様々な有事を想定し、危機管理マニュアルの見直しを行う。 ・保健環境部を中心に、ヒヤリハット事例を集約、共有し、安全安心な教育環境の整備に迅速に対応する。	・危機管理マニュアルの見直しと整備を進めることができたか。 ・ヒヤリハット報告を活用し、学習環境の改善ができたか。			
4	学校ホームページは年間100回以上の投稿が行えた。今年度は毎日更新を目標とし、「また見たい」ホームページを目指す。	・積極的な情報発信。	・学校ホームページのレイアウトの工夫と定期的な更新を行う。 ・学校説明会等のページを充実させ、本校の教育内容を一目で理解できるように内容とする。	・学校ホームページの更新を毎日行うことができたか。 ・内容を充実させることで訪問者数が増えたか。			
	インクルーシブ教育の推進のため、積極的に関係機関と連携し、様々な形態の共同学習、活動を推進することが必要である。	・地域社会との連携による開かれた学校づくり。	・北本高校と情報交換や交流学习を実施し、同じ敷地内の学校として相互理解を推進する。 ・生徒が地域の小中学校を訪問したり、焼き菓子や花苗を販売したりしながら、交流をとおして北本分校の魅力伝える。	・北本高校との交流授業、情報共有を行うことができたか。 ・地域社会と連携した活動をとおして分校のPRを行うことができたか。			

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	令和 年 月 日
学校関係者からの意見・要望・評価等	

